

埼玉育ちのグローバル人

いきなりトンガ

第1回 「どんな生活」

元 JICA 海外協力隊 2018 年度 1 次隊
トンガ王国・コミュニティ開発
伊藤 有未さん



埼玉県マスコット
「コバトン」



Mālō e lelei (マロ エ レレイ)! JICA 海外協力隊、トンガ王国に派遣されておりました伊藤有未と申します。(職種: コミュニティ開発)

全 3 回に分けて、トンガ王国 (以下「トンガ」) について、ご紹介させていただきます。



トンガ着任時のファアモツ国際空港
(2018年6月)

トンガって、どんな国? どんな暮らし?

ディズニー映画のモアナを見られた方は、大洋州地域のイメージが想像しやすいかもしれません。トンガはニュージーランドの北東に位置し、南太平洋に浮かぶ人口約 10 万人の小さな島国。家族や地域との繋がりをとても大切にし、フレンドリーアイランドとも言われる、人情味溢れる国です。

第 1 回目は、衣食住の観点から、トンガの魅力を存分にお伝えします。

「衣」伝統衣装の代表は、ごごのような腰巻「タオバラ」や女性は花型など様々な形や色をした「キ

エキエ」。相手へ敬意を払うとされ、教会へ赴く際には必ず身に付けるトンガの人々の必需品です。男女に共通するのが、トゥペヌと言われる巻きスカート。フィジーやサモア、大洋州諸国ではかれています、トンガでは足首まで隠れる長さが基本とされています。



ファカメイ (トンガのこどもの日) を祝う
正装であるタオバラを巻いています

学生服は、各学校が持つスクールカラーが入ったワンピースとタオバラを身に付けます。女子生徒の髪型は編み込みのおさげスタイルと決められ、使用するペンを後頭部に挿すのもよく見られる光景です。

日々の服装は、T シャツ等ゆったりめのカットソーのラフスタイル。穴があいていても、表裏逆でもお構いなし。着なくなった衣類は自ら路上に店を開き、販売するのもトンガスタイルです。また、国

民的スポーツであるラグビーの試合が開催される日は、トンガが赤色に染まります。家外の装飾や皆が赤色のアイテムを身に付けるなど、一体感が一層強くなる日となります。

「食」食生活については、第2回で詳しく説明するとして、ここでは伝統料理についてお話しします。毎週日曜日の教会後に欠かせないのが、ココナッツミルクと肉や魚をタロイモの葉で包み、ウムという土蒸し調理法を用いた料理、ルーです。ツルムラサキに似たような少し粘り気のあるペレという葉物をココナッツミルクで煮込んだ料理も代表的な家庭料理の1つです。

いずれも付け合せは、主食となるイモ類。食材調達は、自給自足、マーケットや出店、ファレコロアと言われる生活用品店がメインです。主な生活物資は、アジア圏や他の大洋州諸国、一部米国から輸入されています。



トンガの伝統料理ルー

「住」首都では時折2階建ての家も見受けられますが、住まいは1階平屋建てがほとんどです。大半の家庭は自身の菜園を持ち、平日の夕方や土曜日に畑作業に行きます。そこでは、主食となるタロイモやキャッサバ、伝統的な嗜好品として主に男性の間で飲まれるカバの栽培をしています。電気は比較的安定し、ガスはプロパンが一般的。多くの家庭では、レインタンクに溜められた水を飲料水としています。インターネット環境は、月額契約もありますが、プリペイドカードで用量を支払う人が多いように見受けられます。日用家電の所有率は、洗濯機が高いものの、電子レンジやドライヤー、

テレビ、パソコンが1台ずつ備わっている家庭は稀と言えるでしょう。ラジオとインターネット、地域の口コミが、主な情報収集手段です。また、一部の家庭や宿泊施設を除き、給湯器は存在しないので、トンガでは水シャワーが基本です。大雨の日には、ファカウハと言って、大人も子どもも楽しみながら、天然のシャワーを浴びることがあります。

最後に、今回はトンガでよく見かける動物について、簡単にご紹介します。

トンガの動物たち

トンガを訪れた際に、よく見かけるのは犬と豚。犬は番犬として飼われることもあります。野犬も多く存在します。自己防衛として、犬に石を投げることも日常茶飯事です。トンガを訪れる際には、飼いならされた犬とも限らないため、要注意。そして、犬に次いで散見されるのが、豚。足早に数匹の子豚が道を横切ることもしばしば。トンガでは、大半の家庭の敷地内に豚小屋が存在し、朝晩の餌やりをはじめ、大切に飼育されています。トンガでは祝儀の際、子豚の丸焼きが出されるため、豚は家畜であり、大切な財産。男性陣が数時間かけて焼く子豚の丸焼きは、絶品です。



豚のエサはココナッツと残飯

いかがでしたか。以上、今回は衣食住の観点からトンガについてお話させていただきました。

次回は、私のトンガでの協力隊の活動と任地についてご紹介させていただきます。それではまた、**Toki sio!**